

第3節 21世紀COEプログラム・ グローバルCOEプログラム

これら2つのCOE（Center of Excellence）プログラムによる補助金は、選択と集中による大学への予算配分という考え方に基づいた助成事業の草分けであるが、振り返ってみると、これ以降に開始された重点支援の大型の研究費補助金に比較すると補助金額自体は大きいとは言えない。しかし、当時としては大変高額であり、加えて採択されるか否か、場合によっては自分たちの大学が申請に至るかどうかで、高等教育研究機関としての大学のイメージに大きな影響を与えることが想定されたため、各大学は申請に向けて持てる力を結集する必要があった。千葉大学においても、学長が中心となり、理事、研究科長等を始め多くの教員が大きな緊張感の中で申請のために連携し時間と労力を費やした。

本節では千葉大学のこれらのCOEプログラムへの申請と採択されたCOE拠点について記録するが、千葉大学からのこれらのCOE事業へのすべての申請について、申請した研究科・専攻、拠点名称と担当した代表者（拠点リーダー）を審査の結果にかかわらずすべてを後出の表1-2-3-1と表1-2-3-2に収録し、その努力に敬意を表しておきたい。

第1項 21世紀COEプログラム

(1) 背景と目的

21世紀COEプログラムは、2001（平成13）年6月の「大学の構造改革の方針」に基づき、2002（平成14）年度から文部科学省に新規事業として措置された「研究拠点形成費補助金」により開始されたものである。我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的としている。なお、重点支援期間は5年である。

(2) 評価項目・審査

同プログラムへの補助金は、専門家や有識者による評価に基づき、主として研究面においてポテンシャルの高い専攻（大学院博士課程）等が世界最高水準の研究教育拠点を形成するために必要とする経費について補助するもので、以下の①～④にすぐれた研究拠点に対して重点的支援が行われた。

- ① 当該分野における研究上、優れた成果を挙げ、将来の発展性もあり、高度な研究能力を有し人材育成機能を持つ研究教育拠点の形成が期待できるもの
- ② 学長を中心としたマネジメント体制による指導力の下、個性的な将来計画と強い実行力により、世界的な研究教育拠点形成が期待できるもの
- ③ 特色ある学問分野の開拓を通じて創造的、画期的な成果が期待できるもの
- ④ 21世紀COEプログラムで行う事業が終了した後も、世界的な研究教育拠点としての継続的な研究教育活動が期待できるもの

上記の目的や評価項目から、申請において申請者は大学の総長／学長で、事業推進担当者（拠点リーダー／プログラムリーダー）は大学院（博士課程）の教員である。補助金交付先の審査・評価は、日本学術振興会に設置された21世紀COEプログラム委員会により行われた。

(3) 千葉大学の申請状況と採択結果

2002（平成14）年度～2004（平成16）年度の3年間にわたる公募に対して全国の大学から応募された全申請数は1,395件、全採択数は274件（採択率19.6%）である。各大学が申請拠点を厳選して応募したことがうかがえる。千葉大学の各研究科から申請された総数は18件であり、そのうち以下の4件（採択率22.2%）が採択された。複数の研究科・専攻から18件におよぶ申請が行われたことは、1990年代のいわゆる大学院重点化に関連して博士課程の充実や改善に努力してきた教員の協力の結果である。表1-2-3-1に21世紀COEプログラムにおける公募分野と公募年度、千葉大学からの申請と採択の結果と全国の大学から申請された全申請件数と採択件数を比較して示した。

以下に採択された千葉大学の4つの拠点をまとめて示す。

2003（平成15）年度 採択 3件

【募集区分：〈医学系〉、採択 2件】

- ① 拠点番号：F04 医学薬学府・先進医療科学専攻、拠点リーダー 丹沢秀樹教授
拠点名称：消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点
- ② 拠点番号：F05 看護学研究科・看護学専攻、拠点リーダー 石垣和子教授
拠点名称：日本文化型看護学の創出・国際発信拠点

【募集区分：〈数学・物理学・地球科学〉、採択 1件】

- ③ 拠点番号：G04 自然科学研究科・多様性科学専攻、拠点リーダー 上野信雄教授
拠点名称：超高性能有機ソフトデバイスフロンティア

2004（平成16）年度 採択 1件

【募集区分：〈革新的な学術分野〉、採択 1件】

- ① 拠点番号：K06 社会文化科学研究科・都市研究専攻、拠点リーダー 廣井良典教授
拠点名称：持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点

21世紀COE拠点へは、拠点形成助成金の他に日本学術振興会の特別研究員の優先配分があり、2005（平成17）年度から間接経費が配分されることになった。また、拠点活動の開始から2年経過後に中間評価を受け、評価結果がその後の補助金額に反映された。

第2項 グローバルCOEプログラム

(1) 背景と目的

2005（平成17）年9月の中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」および第3期科学技術基本計画において、より充実・発展させたポスト21世紀COEプログラムの実現の必要性について言及された。文部科学省ではこれらを踏まえ、学際・複合・新領域も含めたすべての学問分野を対象とする、特に、産業界も含めた社会のあらゆる分野で国際的に活躍できる若手研究者の育成機能の抜本的強化と国際的に卓越した

教育研究拠点の形成を図るために、グローバルCOEプログラムが実施された。

以上から、グローバルCOEプログラムは、日本の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、これらによって国際競争力のある大学づくりの推進を目的とする文部科学省研究拠点形成等補助金事業である。基本的には21世紀COEプログラムの考え方が継承されたが、一層の充実と強化のために「21世紀COE」に比して採択件数を半減させる一方で、一採択拠点あたりの補助金の配分額が増額され、より競争的な制度が計画された。

後述のように、2007（平成19）年度のグローバルCOEプログラム開始後、2009（平成21）年4月の自由民主党から民主党への政権交代によって11月から行われた事業仕分けの結果、事業予算の削減があり、21世紀COE時代に導入された間接経費が2011（平成23）年度からグローバルCOEプログラムでは中止になるなど、事業仕分けの影響があった。

(2) 公募対象

21世紀COEプログラムの経験から公募対象がより分かりやすく明確になった。対象は、大学院研究科専攻（博士課程レベル）、大学附置の研究所、研究センター等である（なお、将来的な拠点構想が明確となっており、連携が拠点形成に必要不可欠である場合であって、一定の条件を満たす計画であれば、他の大学を含めた国内外の研究機関等と連携した取組も対象）。

(3) 審査の特徴と結果

21世紀COEプログラムとの違いを述べておく。日本語の申請書による国内での書面審査を通過しヒアリング審査に残った拠点は、英文による申請書を提出し海外の審査員の審査を受ける。ヒアリング審査では、最初に学長による大学としての支援体制などについてのプレゼンテーションによる説明が必須で、学長は拠点形成への重点的支援を千葉大学として約束する必要があった。その後続けて拠点リーダーによる拠点計画に関する説明を行い、ヒアリング審査委員に届いている海外審査委員の意見を考慮したヒアリング委員の質問に答えるという方式である。英語による申請書の提出と海外審査、さらに学長のヒアリングでの説明も初めての経験であった。

全国からの総申請数は741件、総採択数は140件（採択率18.9%）であり、21世紀COEプログラムに比べると総申請数は53%、総採択数は51%といずれも半減した。

数旧帝大からの申請の多くが採択され、その他の大学との差が目立った。千葉大学からの申請は、合計11件であり、2件（採択率18.2%）が採択された。医学系（医学薬学府から）1件、数学・物理学・地球科学（自然科学研究科から／採択後改組で融合科学研究科から）1件、合計2拠点である。表1-2-3-2にグローバルCOEプログラムへの千葉大学からの申請件数と採択結果、および全国の大学から申請された全申請件数と採択件数を比較して示した。

以下に千葉大学の2つの採択拠点を示す。

2008（平成20）年度 採択2件

【募集区分：〈医学系〉、採択1件】

- ① 拠点番号：F04 医学薬学府・先端生命科学専攻、拠点リーダー 中山俊憲教授

拠点名称：免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点（Global Center for Education and Research in Immune System Regulation and Treatment）

【募集区分：〈数学・物理学・地球科学〉、採択1件】

- ② 拠点番号：G03 融合科学研究科・ナノサイエンス専攻、拠点リーダー 上野信雄教授

拠点名称：有機エレクトロニクス高度化スクール
（Advanced School for Organic Electronics）

なお、拠点G03は「特に優れた2つの拠点の1つとして採択され重点支援対象拠点」となった。本拠点は自然科学研究科・多様性科学専攻から申請されたが、事業期間中に研究科の改組が行われ拠点リーダー等が新設の融合科学研究科のナノサイエンス専攻に異動したため、拠点が新研究科・専攻に変更されている。

グローバルCOEプログラム事業は、2009（平成21）年11月からの新政権による事業仕分けにより事業予算が削減された。その結果、間接経費のカットなど各拠点への助成額が減額されたが、日本学術振興会の特別研究員の優先配分は引き続き実施された。なお、上記の千葉大学の2つの拠点は、事業終了後のフォローアップ予算として2013（平成25）年度研究拠点形成費等補助金（卓越した大学院拠点形成支援補助金）が配分された。

第1部第2章

表1-2-3-1

21世紀COEプログラム（事業期間5年）への千葉大学の申請と採択状況のまとめ（括弧書きで全国の大学の結果を比較した）

2023.3.1最終調査

	年度	区分分野	申請数 (全国件数)		採択数 (全国件数)		申請した専攻等（太字は採択）	拠点リーダー	採択	
21世紀COEプログラム	2002 (H14)	生命科学	1 (112)	合計 5 (464)	0 (28)	合計 0 (113)	医学薬学府・先進医療科学専攻 「ポストゲノム集積生命科学」	五十嵐一衛 教授		
		化学・材料科学	1 (82)		0 (21)		自然科学研究科・物質高次科学専攻 「高次機能物質の先導的開発研究と人材育成」	小熊幸一 教授		
		情報・電気・電子	1 (78)		0 (20)		自然科学研究科・人工システム科学専攻 「画像情報システムの新技术創生と人材育成」	工藤一浩 教授		
		人文科学	1 (79)		0 (20)		社会文化科学研究科・日本研究専攻 「知識社会における新しい規範形成の研究」	高橋久一郎 教授		
		学際・複合・新領域	1 (113)		0 (24)		自然科学研究科・多様性科学専攻 「複雑系スケラブルサイエンスの構築と展開」	西川恵子 教授		
	2003 (H15)	医学系	3 (138)	合計 9 (611)	2 (35)	合計 3 (133)	医学薬学府・先進医療科学専攻 「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」	丹沢秀樹 教授	○	
							看護学研究科・看護学専攻 「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点」	石垣和子 教授	○	
							医学薬学府・先端生命科学専攻 「難治疾患制御への免疫・アレルギー研究戦略」	徳久剛史 教授		
		数学・物理学・地球科学	2 (86)		1 (24)		0 (23)	自然科学研究科・多様性科学専攻 「超高性能有機ソフトデバイスフロンティア」	上野信雄 教授	○
								自然科学研究科・数理解物性科学専攻 「活動宇宙のフロンティアサイエンス」	松元亮治 教授	
		機械・土木・建築・その他工学	1 (106)		0 (26)		自然科学研究科・人工システム科学専攻 「人間の安全保障支援ロボティクス」	野波健蔵 教授		
		社会科学	1 (105)		0 (26)		社会文化科学研究科・都市研究専攻 「メガロポリスの制御」	新藤宗幸 教授		
	学際・複合・新領域	2 (176)	0 (25)	医学薬学府・環境健康科学専攻 「バイオテロ災害に対するバイオシールド研究」	野田公俊 教授					
				医学薬学府・環境健康科学専攻 「次世代環境健康学の創成」	森 千里 教授					
	2004 (H16)	革新的な 学術分野	4 (320)	合計 4 (320)	1 (28)	合計 1 (28)	社会文化科学研究科・都市研究専攻 「持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点」	廣井良典 教授	○	
							自然科学研究科・情報科学専攻 「次世代医学画像の創生と人材育成の拠点」	蜂屋弘之 教授		
							医学薬学府・先進医療科学専攻 「薬物治療を担う先端医薬学博士育成拠点」	堀江利治 教授		
							自然科学研究科・多様性科学専攻 「食住統合園芸療法の研究教育拠点形成」	古在豊樹 教授		

表1-2-3-2

グローバルCOEプログラム（事業期間5年）への千葉大学の申請・採択状況のまとめ（括弧書きで全国の大学の結果を比較した）

2023.3.1最終調査

年度	区分分野	申請数 (全国件数)		採択数 (全国件数)		申請した専攻等（太字は採択）	拠点リーダー	採択
2007 (H19)	生命科学	1 (55)	合計 4 (281)	0 (13)	合計 0 (63)	自然科学研究科・多様性科学専攻 「分子農業による医薬用高次機能性物質生産」	木庭卓人 教授	
	化学・材料科学	1 (45)		0 (13)		自然科学研究科・物質高次科学専攻 「ナノ分子場によるサステナブル化学」	金子克美 教授	
	情報・電気 ・電子	0 (37)		0 (13)		(申請なし)		
	人文科学	1 (39)		0 (12)		人文社会科学研究科・公共研究専攻 「北東アジアにおける共生のための日本研究」	山田 賢 教授	
	学際・複合 ・新領域	1 (105)		0 (12)		社会精神保健教育研究センター 「司法精神保健の学術基盤形成拠点」	伊豫雅臣 教授	
2008 (H20)	医学系	2 (72)	合計 6 (315)	1 (14)	合計 2 (68)	医学薬学府・先端生命科学専攻 「免疫システム制御治療学の国際教育研究拠点」	中山俊憲 教授	○
				看護学専攻 「文化看護学の展開による豊かな「生」の創生」		正木治恵 教授		
	数学・物理学 ・地球科学	1 (36)		1 (14)		融合科学研究科・ナノサイエンス専攻 「有機エレクトロニクス高度化スクール」	上野信雄 教授	○
	機械、建築、土木、 その他工学	1 (48)		0 (14)		工学研究科・人工システム科学専攻 「バイオマイクロ空ロボティクス・デザイン」	野波健蔵 教授	
	社会科学	1 (48)		0 (14)		人文社会科学研究科・公共研究専攻 「コミュニティ生成の社会構想学」	武井秀夫 教授	
	学際・複合・ 新領域	1 (111)		0 (12)		フロンティアメディカル工学研究開発センター 「統合生体情報に基づく分子医工検診学の創成」	三宅洋一 教授	
2009 (H21)	学際・複合・ 新領域	1 (145)	合計 1 (145)	0 (9)	合計 0 (9)	人文社会科学研究科・公共研究専攻 「持続可能な地球的文明の生成的発展 —公共的幸福を求めて」	小林正弥 教授	

第4節 アカデミック・リンク・センターの 発足と教育・学修支援

第1項 アカデミック・リンクという理念とその実現

アカデミック・リンクは、知識基盤社会を生き抜く力を持つ「考える学生の創造」を目的として掲げ、これを実現するために「コンテンツと学習の近接による能動的学習の促進」を実行しようとしたもので、2012年3月の附属図書館の全面的な改修・増築によって実現した。快適な学習空間、学習のための多様な資料群（コンテンツ）、